



## ● 地図（マップ）に観る色彩力

「閉幕が近づき入場できない!!」というニュースも流れている大阪・関西万博ですが、その会場で多くの人が手にしている「つじさんの地図」をご存じでしょうか？

わかりやすいとのことで“非公式マップ”としてXに投稿されたものを無料でダウンロード、コンビニで印刷という流れで入手出来る地図です。パビリオンへの入場が先着のみか予約のみか等をはじめ、欲しい情報が一目でわかる内容になっているのはもちろんのこと、公式では黒丸に白の十字で記載されている「医療救護施設」は赤丸に白十字。給水関連は青を使うなどロゴマークの4色と意味合い的にも直観的にもわかりやすい配色となっています。

少ない色で一目でわかる地図をつくるのは容易でなくこういう場面でこそ色彩力が問われるのだと改めて思いました。

ちなみに私は残念ながら見逃しましたが先般NHKでも放送されていたようです。

無償でこれだけのものを作られる「つじさん」の本職にもふれた内容になっていますのでご興味のある方は「つじさん 万博」で検索されてみてはいかがでしょうか。

(幹事 水野智子)

## ● 「江戸文化と色名」について

今年4月に関東支部で講演された橋本実千代氏の同内容の学会誌への寄稿文『江戸文化と色名』が発表されました。江戸の色彩文化と色名が分かりやすく時期別にまとめられています。しかも、笹紅や『色道大鏡』の黒についてなど多くは知られていないところまで記され江戸の色彩文化の奥深さを知ることができます。学会誌の8月号のWEBのお知らせにURLが掲載されてますが、閲覧できない方がいらっしゃるようです。

参考までに、Googleでの設定方法をご紹介します。IDとパスワードをログイン後、右上の点3つから「拡張機能」→「拡張機能を管理」→「Adobe Acrobat」の「PDFの編集、変換、署名ツール」の右下のスイッチをOFFにして灰色に設定すると閲覧可能となると思います。

講演で紹介された『江戸彩り見立て帖』（坂井希久子、文集文庫）シリーズは私も愛読書で今年4作目が刊行されました。江戸文化の美意識が息づく深川界限を舞台に数多くの心憎い色名の登場に心惹かれています。

江戸文化と色名に触れられる優れた寄稿文を多くの方々に熟読していただきたいと心から願っております。

(園田好江)

## ● 大辞典ひろい読み 93 一こ

**古色**：こしょく。古めかしい色合い。古びた趣。

**古色蒼然**：長い年月を経て、いかにも古びて見えるさま。

**五色旗**：ごしょくき。中華民国成立（1912）後、国民政府成立（1928）までの中華民国国旗。漢（赤）・滿（黄）・蒙（藍）・回（白）・西藏（黒）の五族共和を象徴する。

**呉須**：ごす。磁器の染め付けに用いる鉱物質の顔料。酸化コバルトを主成分として鉄・マンガン・ニッケルなどを含み、還元炎により藍青色ないし紫青色に発色する。天然に産した中国の地方名から生まれた日本名で、現在では合成呉須が広く用いられる。

**呉須青絵**：ごすあおえ。青呉須。青を基調とした五彩磁器。

**呉須赤絵**：ごすあかえ。赤呉須。赤を基調とした五彩磁器。

**濃墨**：こずみ。濃くすった墨。また、その墨の色。逆は薄墨。

**五星紅旗**：ごせいこうき。中華人民共和国の国旗。赤地の左上方に、一個の大星と、弧状にこれを囲む四個の小星とが黄色に染め抜いてある。1949年制定。

**濃染紙**：こせんし。濃く染めた紙。

\*大辞泉：小学館発行国語辞典（永田泰弘）